

学校教育目標	『自ら学び ともに豊かな生活を創り出す子どもの育成』～おもいやり すすんで行動 だれとでも協力 恩田の子～			
	自ら問題を発見し、課題解決に向けて主体的に考え、身に付けた知識や技能を生活に生かしたらかせる子【知】 自ら正しい判断を行い、他者の立場や気持ちを思いやり尊重し合って生活する子【徳】 心身の健康に関心を持ち、自ら進んで運動を継続的にやり、心身ともにたくましく生きる子【体】 自分の役割や働くことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働しながら課題解決に向けてと取り組む子【公】 自他の違いを受け止めともに生きる力を育み、グローバルな視野をもって持続可能な社会の実現に向けて行動する子【開】			

学校概要	創立 36 周年	学校長 寶來生志子	副校長 鷲澤志保子	2学期制	一般学級: 15	個別支援学級: 4
	児童生徒数: 462 人	主な関係校: 奈良中学校・桂小学校・奈良小学校・田奈高校・日本体育大学				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	奈良中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
ESDを基盤とした資質・能力から 「批判的に思考し、判断する力」 「多面的・総合的に考える力」 「コミュニケーションを行う力」 「他者と協力する態度」 「つながりを尊重する態度」	奈良中学校 恩田小学校 桂小学校 奈良小学校	ひと、もの、こととの関わりを通して、 豊かなコミュニケーション能力をもつ子ども 様々な視点で「観」の共有を図り、義務教育9年間で子どもを育む。 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・生徒会、部活動交流 ・子ども像を共有しながら、児童生徒指導や特別支援教育の情報交換や授業参観等の交流の推進

中期取組目標	○「子どもを育てる」学校から「子どもが育つ」学校にしていきます。 ・「自分たちでやっていいんだ」という実感と手応えをもてる授業づくりを目指します。 ・全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを一体的に実現できるようにします。 ○子どもたちが安心して自己発揮できる学校を、教職員、家庭、地域の方、みんなで創っていきます。 ・「子どもは学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手である」という肯定的な子ども観をもち、子どもの視点に立って考え、人権を尊重します。 ・手応え感覚(①充実感②達成感③自己有能感④一体感)を高めていけるよう、価値ある体験ができる環境づくりを学校教育全体で大切にしていきます。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>知</b> 生きてはたらく知 担当 学校運営部C	①生活科・「横浜の時間」を中心として地域の材を活用し、子どもが自ら課題をみつけ主体的に解決できる力を育む。②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。③どの学年もスタートカリキュラムの視点を持ち、これまでの子どもの学びや気づきを大切に活動を展開する。
<b>徳</b> 豊かな心 担当 学校運営部C	①道徳の時間を要とした道徳教育の推進。②たてわりペア活動での異学年集団による様々な活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる。③自然体験などの体験的な活動を充実させ、自然から得られる感動や人とのつながりから得られる相手を尊重する態度、感謝の気持ちを育てる。
<b>体</b> 健やかな体 担当 学校運営部B	①給食を通して、食の大切さを理解しバランスのとれた食生活について理解する。②体力向上に向けて、しっぽとりやなわとび等、感染症対策を取りながら、年間を通して運動に親しめるよう取り組む。③保健体育の授業を通して、保健的な知識を学び、実生活で活用できるように自分事として事柄を考える学習に取り組む。
<b>開公</b> ESD/SDGsを達成するための取組 担当 学校運営部A	①生活科・「横浜の時間」:算数科を通してESD/SDGsとの関連を意識した単元づくりを行う。②委員会活動でSDGsの17の目標達成に向けて取り組む。③ESD実践リーフレットを作成し、保護者・地域・全市小学校に配付し発信する。
<b>いじめへの対応</b> 担当 いじめ防止対策委員会	①日々の児童理解に努め、いじめは絶対しない・友達を一人ぼっちにしない・いじめられている友達を助ける。を徹底する。②月1回、児童に「安心・安全アンケート」を実施し実態把握を確実にし、いじめが予見される場合は、専任を中心とした組織で迅速に対応し、SC、SSW等と連携を図りながら支援にあたる。
<b>人材育成・組織運営(働き方)</b> 担当 専門部・メンター	①メンター研修の充実に向けて、ミドルリーダーが中心となって月に1回の研修会をもち、授業実践等を通して教師力の向上を目指す。②主幹教諭を中心とした組織を編成することで業務を明確にし、責任をもって学校運営を進めることができるようにする。③運営組織の見直しとICT機器の活用によるペーパーレスへの取組
<b>地域学校協働活動</b> 担当 学校運営部B	①学校説明会や「学校運営協議会」で学校の取組を発信し、協議の中で得た意見をもとにし、社会に開かれた教育課程を編成する。②地域コーディネーターを通して、地域の材を開発し、地域の人材や保護者にキャリア・環境・福祉・プログラミング教育等に積極的に参画できるようにする。
<b>特別支援教育</b> 担当 特別支援委員会	①学習支援員、AT等の人的環境の整備に力を入れ、個に応じた対応ができる環境づくりをおこなう。②SSWや県立あおば支援学校等の関係機関に積極的に働きかけ、児童によりよい指導、支援が行えるよう取り組んでいく。③一般学級と個別支援学級との交流を充実させ、インクルーシブな授業を推進する。
<b>児童指導・理解</b> 担当 学校運営部C	①児童支援専任、特別支援コーディネーターとの情報の共有と迅速な対応を心掛ける。②恩田小スタンダードの年度ごとの見直し、全体での共有、実践を確実にし、毎月「安心・安全のアンケート」を実施し、児童理解に努め、安心・安全な生活環境を整える。
<b>スタートカリキュラム</b> 担当 専門部	①スタートカリキュラムをデザインし、子どもの実態に合わせて内容を変える等カリキュラム・マネジメントを行う。②全校で1年生の育ちを支援する。③スタートカリキュラム研修会を行い、全職員で子どもたちへのかかわり方を学ぶ。④スタートカリキュラムの意義を保護者や関連の園に伝える。⑤幼保小連携の充実を図る。